

羽越豪雨

一表紙一昭和42年 8 月 29 日 1 時撮影

〈小國町提供〉

〈題字 西野山形工事事務所副所長〉

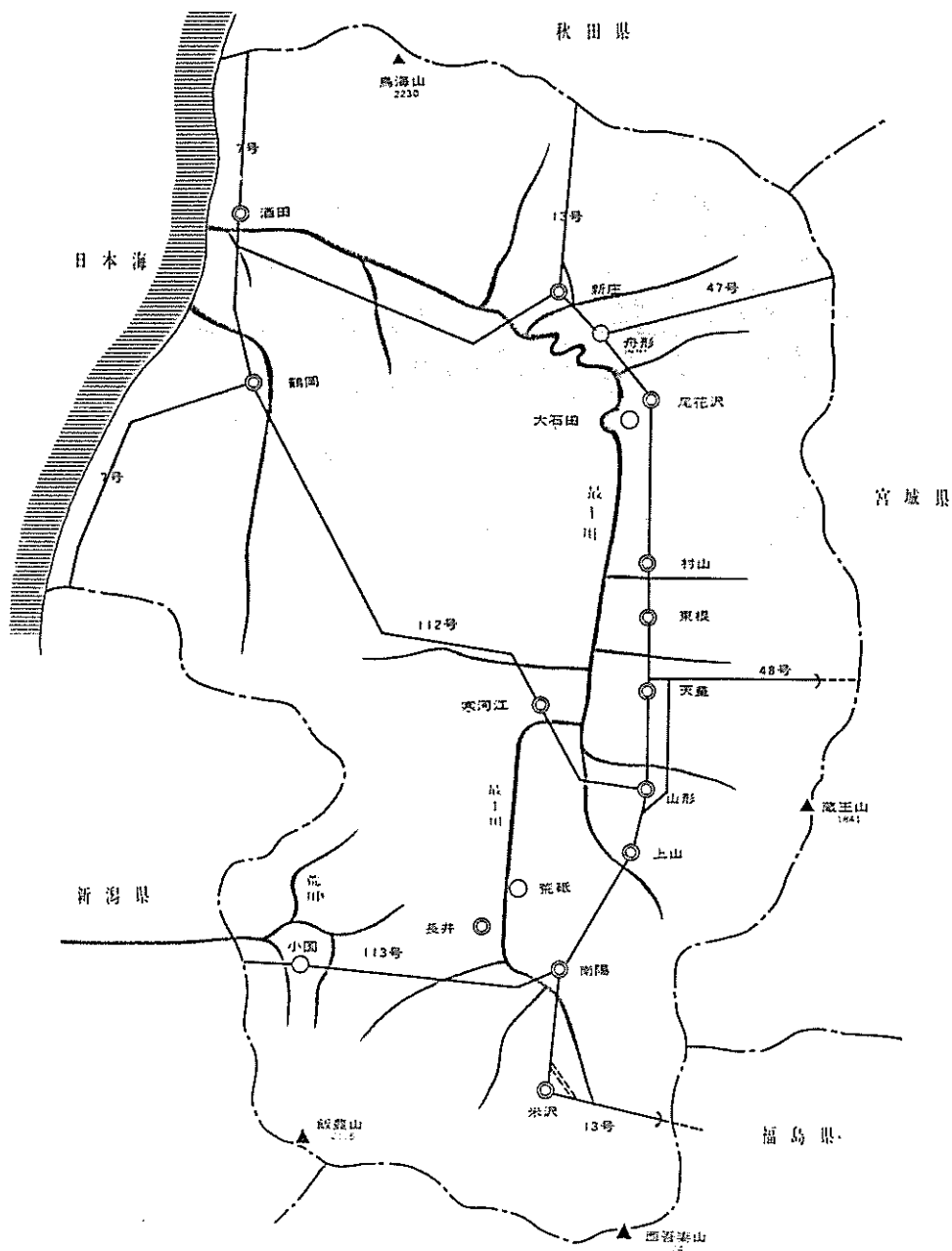
昭和42年 8 月 発生

羽 越 豪 雨 の 概 要

昭和43年 8 月



山形県の道路と河川



「羽越豪雨」発刊にあたって

山形県民は、最上川を、「山形県の母なる川」と云う、しかしながら、県民の心の故郷であり、又、豊かな生活の基盤でもある最上川も一度豪雨に遭えば、県民の生活を根底から破壊するような狂暴性を発揮する。

比較的到低い河岸からなる盆地と、河岸の極めて高い狭窄部とを、交互に貫流してゆく最上川本川は、既に、地形的に、洪水氾濫を起し易い特性を持っていると云わなければならない。したがって、改修工事の歴史も古く、下流部の庄内地方は、大正6年から工事が始められてきた。上流部については、昭和8年に、山形市に、現山形工事事務所の前身である最上川上流改修事務所が設置されて以来、現在に至る迄、嘗々と改修工事が続けられている。

山形工事事務所の所管する最上川改修工事区域は、大石田町から米沢市に至る間の、最上川本川の大部分、および支川の一部であって、その区域延長は、100kmとなっている。この区間の43年度改修事業費は、670百万円であるが、43年度以降の残事業費は、約180億円の巨費を要するであろうと云われており、改修工事の完成は、前途遑遑であると云わざるを得ないのが現状である。

羽越豪雨は、昭和42年8月28日から29日にかけて、新潟県境に近い小国町を中心として、古今未曾有の豪雨をもたらした。この豪雨は、その降雨強度がことに著しかったこと、集中豪雨でありながら、その範囲が比較的広がったことが、特徴であった。そのために、山地崩壊と土石流が顕著にあらわれ、河川の出水も極めて急激で、その被害も広範囲にわたり、山形県県南地方は、県政始つて以来と云う大被害を受けるに至った。

羽越豪雨による直轄河川の災害復旧は、本年度ですべて完了するが未完成の最上川は、何時又、新たな災害を受けるかも知れないと云うのが、偽らざる現状である。この小冊子から、羽越豪雨の実情と、最上川改修の現況を再認識して載ければ、幸いである。

昭和43年8月

山形工事事務所長

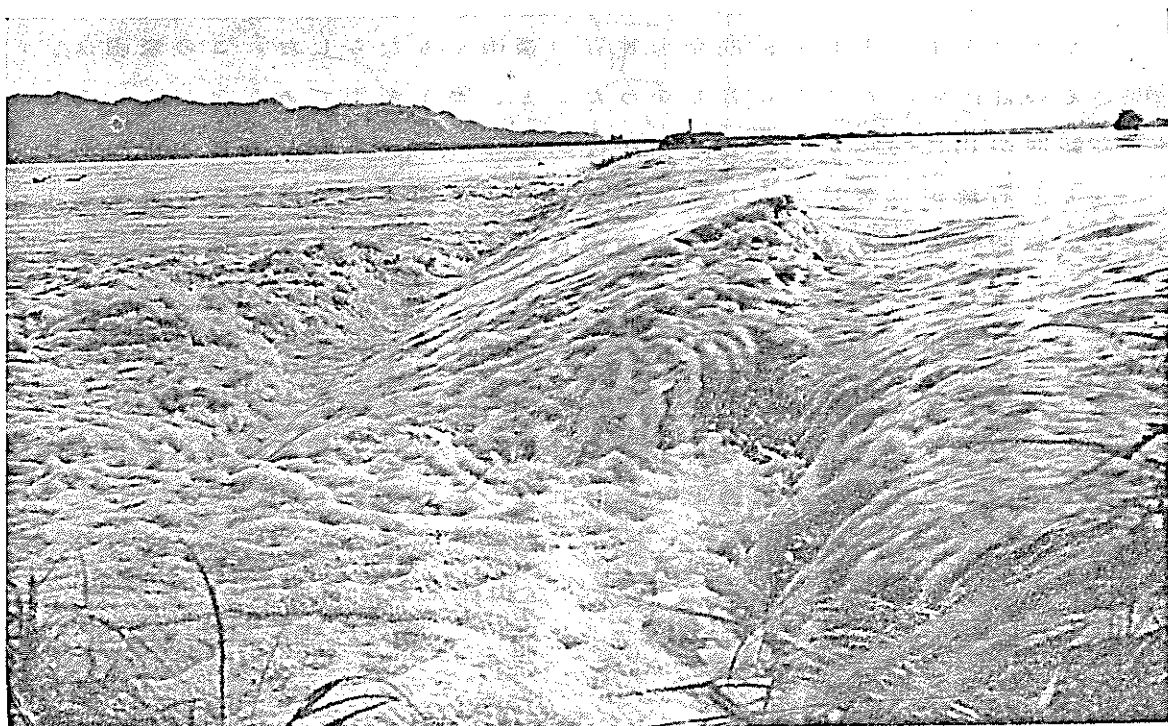
富士野 昭典

* 被 害

昭和42年8月28日早朝から、山形県中南部に断続的に降り出した雨は、夕刻から29日未明にかけ、記録的な集中豪雨となった。

特に小国、飯豊両町を中心とした豪雨は、山形県政始つて以来最大の災害をもたらし、最上川上流地区は急激に水^{みづ}害が上昇したため、各支川が氾濫したのをはじめ、土砂くずれ或いは堤防の決壊が続出、置賜地方全域から村山地方にかけて、死者8名を出したほか、家屋の流失、浸水、農地の流失、決壊等古今未曾有の大被害を蒙り地域住民を^あき然たらしめた。

又一般国道113号線（新潟～山形間）が、小国町内の赤芝橋をはじめ、各所で道路が流失寸断され、一方国鉄米坂線（米沢～坂町間）も鉄橋が濁流に押流されたほか、通信関係も途絶し、小国町は完全に孤立状態となった。

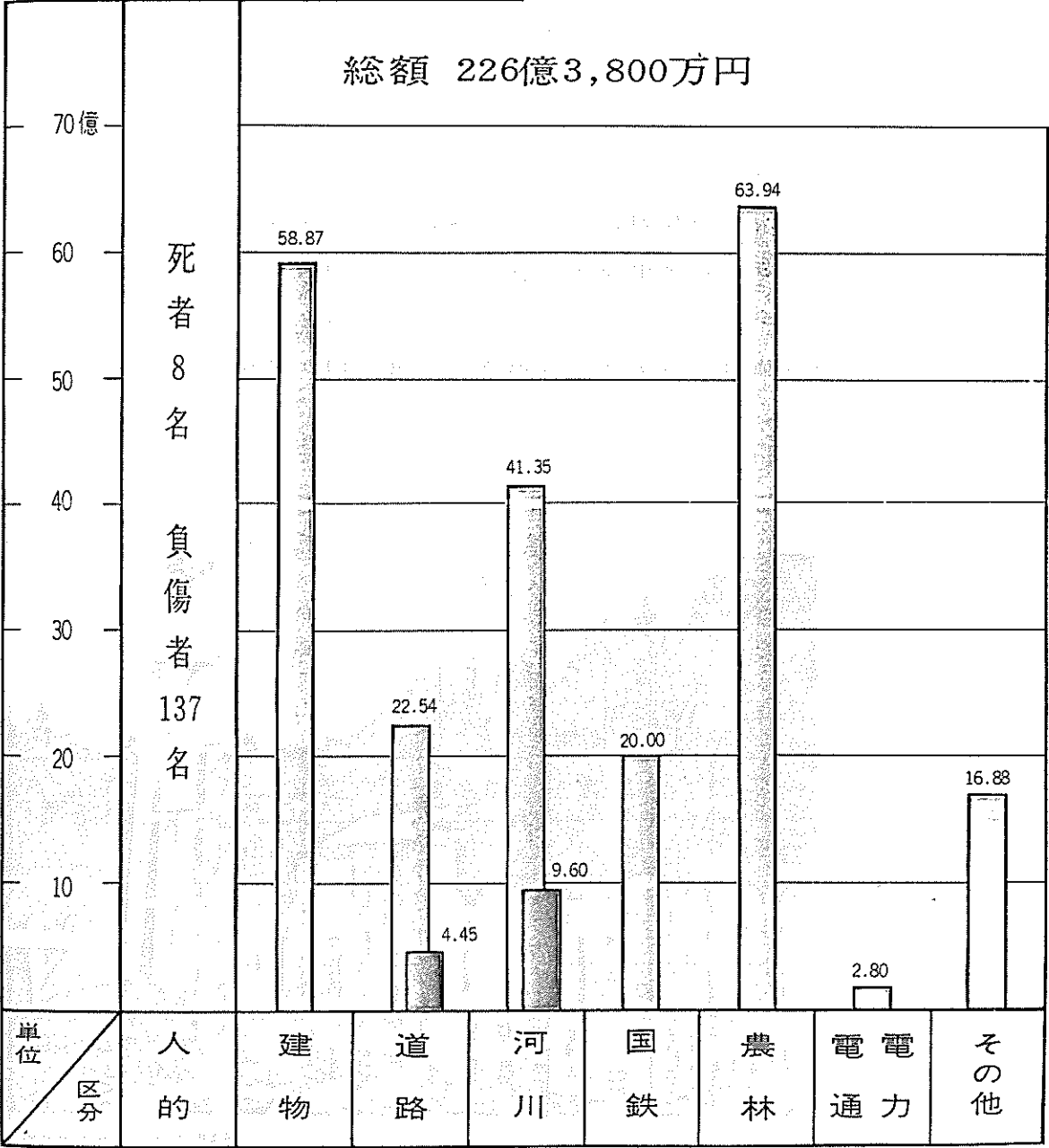


* 堤防を越える濁流 <白鷹町鮎貝地内>

被害額

山形県全体
 内、山形工事事務所管内
 直轄道路災害及び直轄河
 川災害分

総額 226億3,800万円



* 降 雨

8月28日午前3時、前線は東北南部から北陸輪島の北をとおり、日本海北部の低気圧に達し、いわゆる梅雨末期の気圧配置となり、低気圧が東に進むにつれその前線が北上し活動が活発になった。

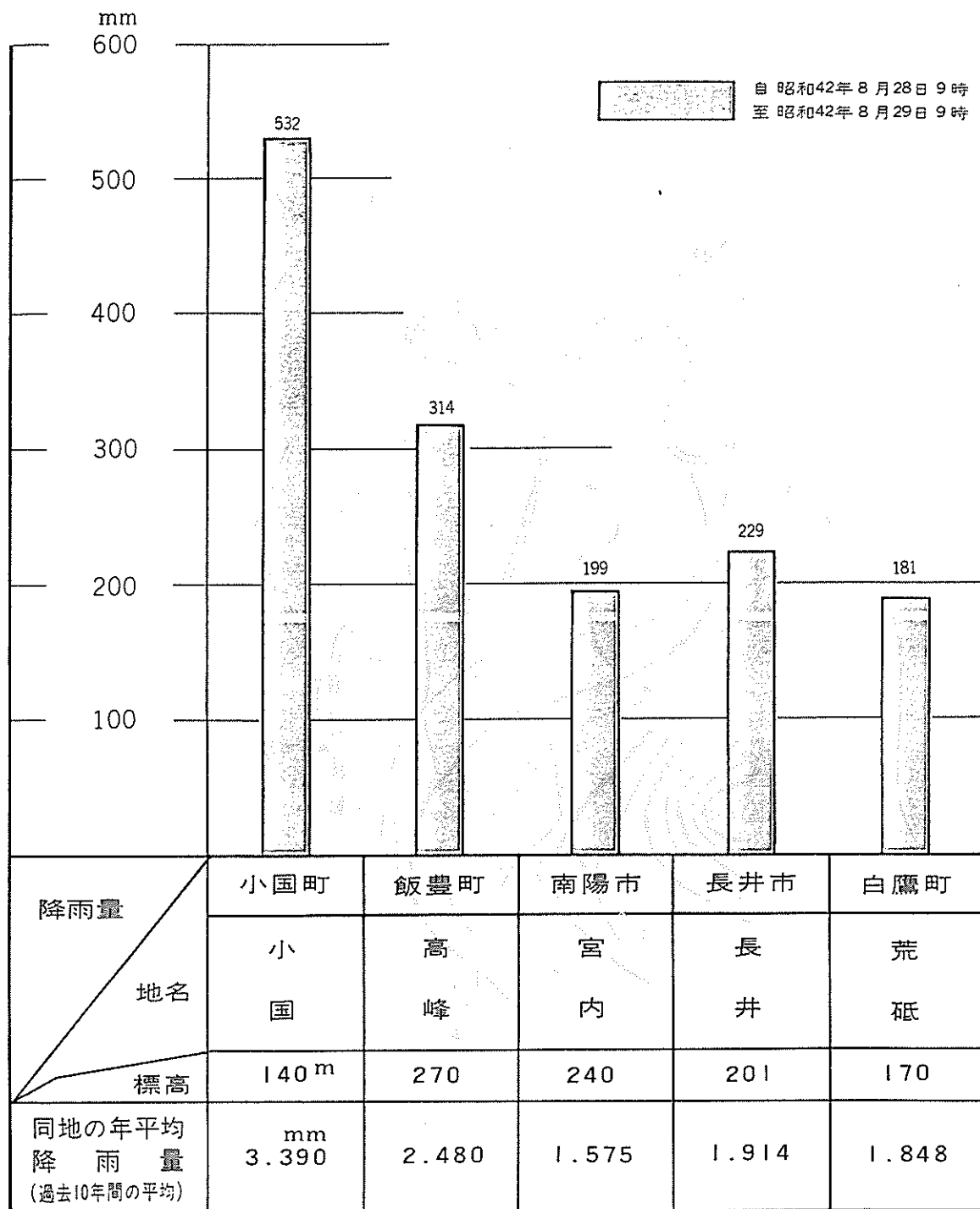
このため、28日早朝から降りだした山形県中南部の雨は、日中一時小やみの所もあったが、その後前線の動きにつれ、夕刻から29日未明にかけて次第に雨は強まり、飯豊、朝日山系を中心とする西置賜地方では未曾有の集中豪雨となった。

この大雨は28日朝、山形・新潟両県境に接する飯豊、朝日山系を中心とする、ごく狭い雨域であったものが、夜半にかけて次第に山形のほぼ半分を占める地域に広がり、各地域とも驚異的な豪雨となった。



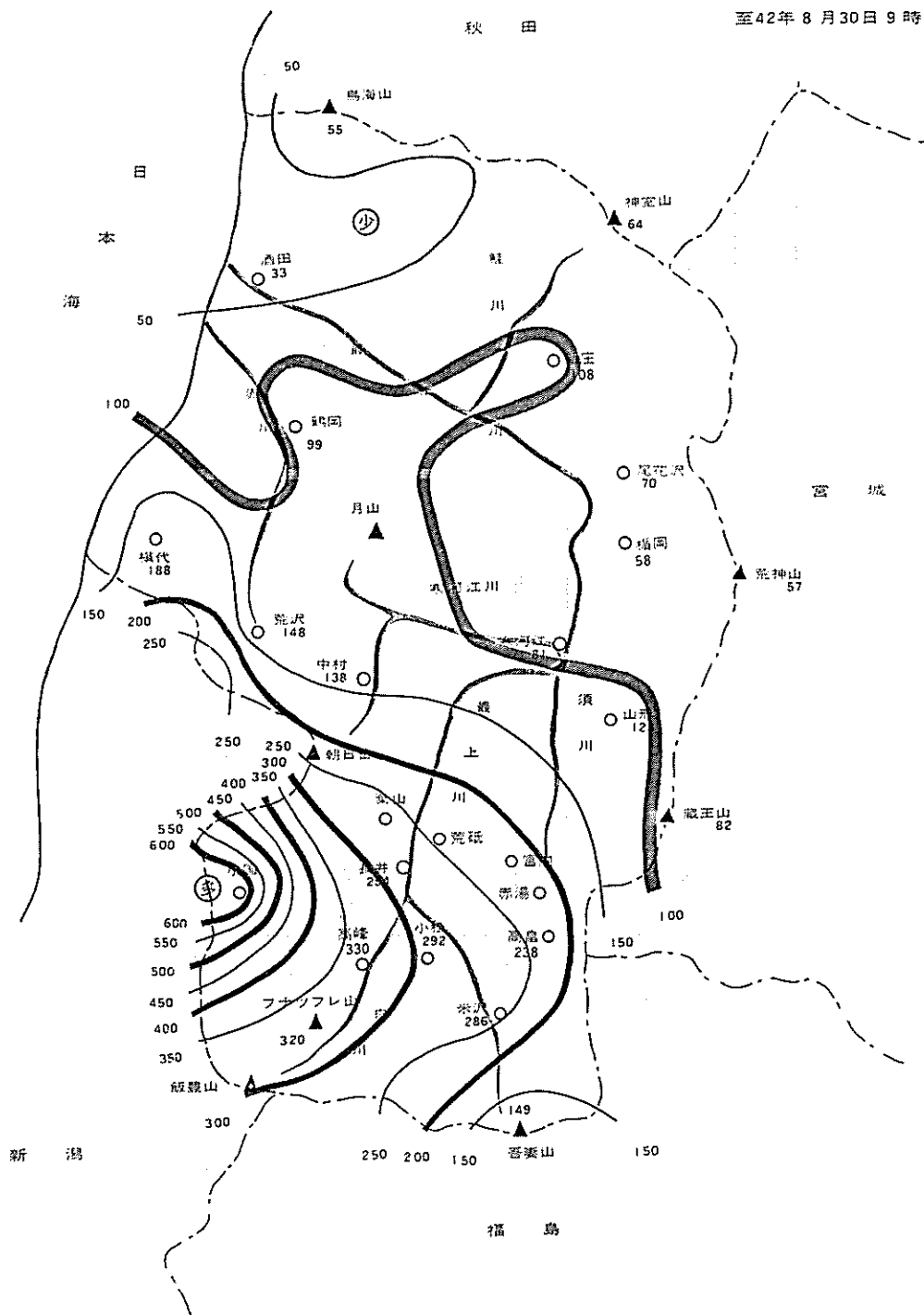
雨量観測所 <天童市田麦野>

おもな市町村の降雨量



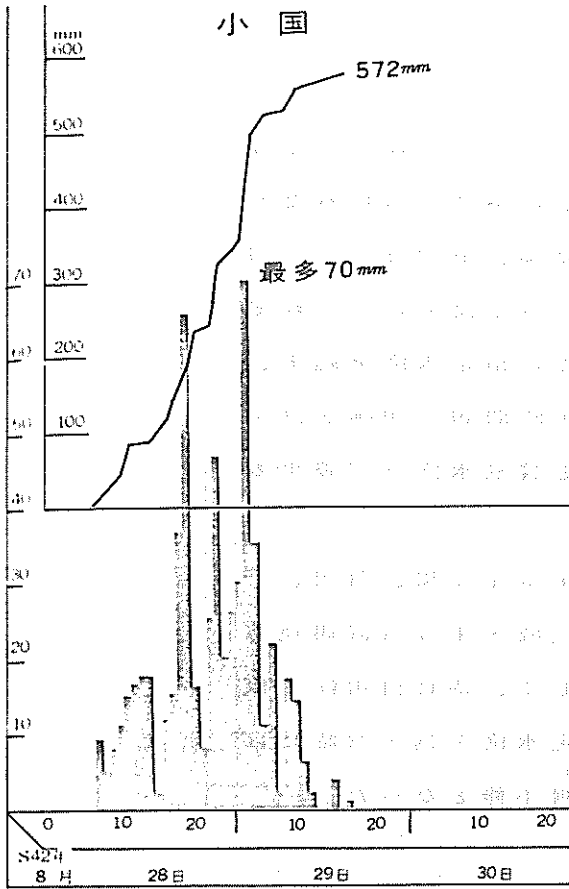
山形県雨量分布図

至42年 8 月30日 9 時

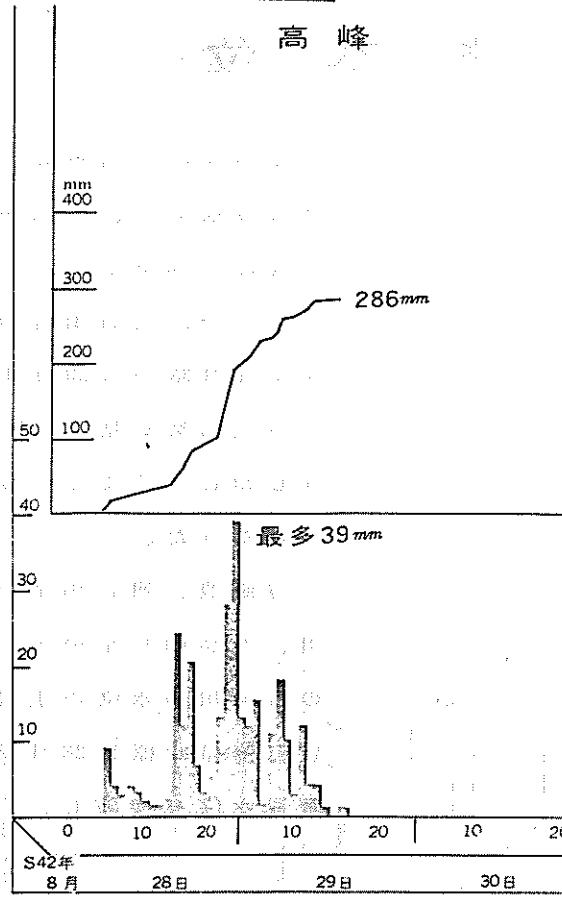


時間降雨量

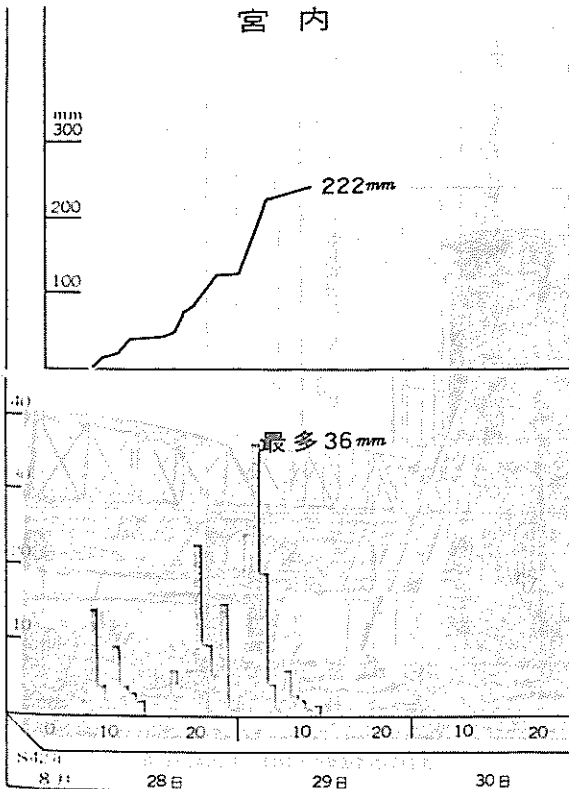
小 国



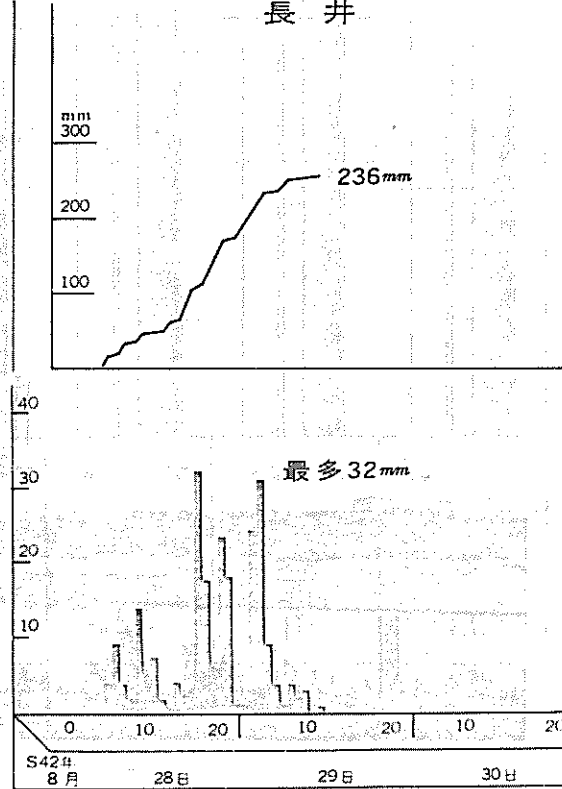
高 峰



宮 内



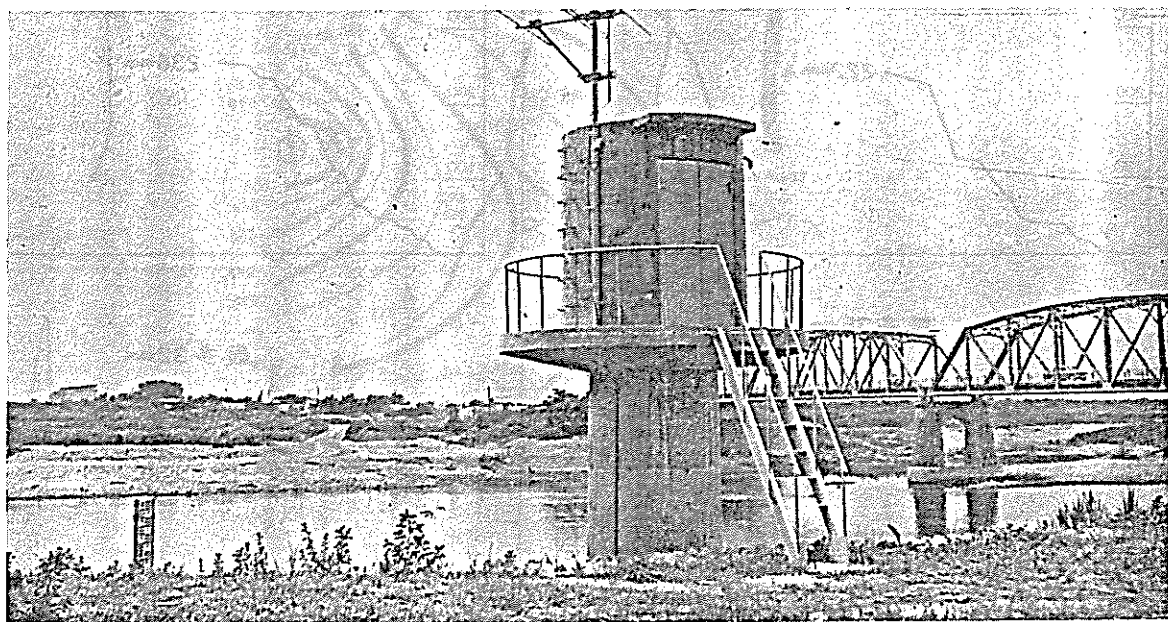
長 井



* 水 位

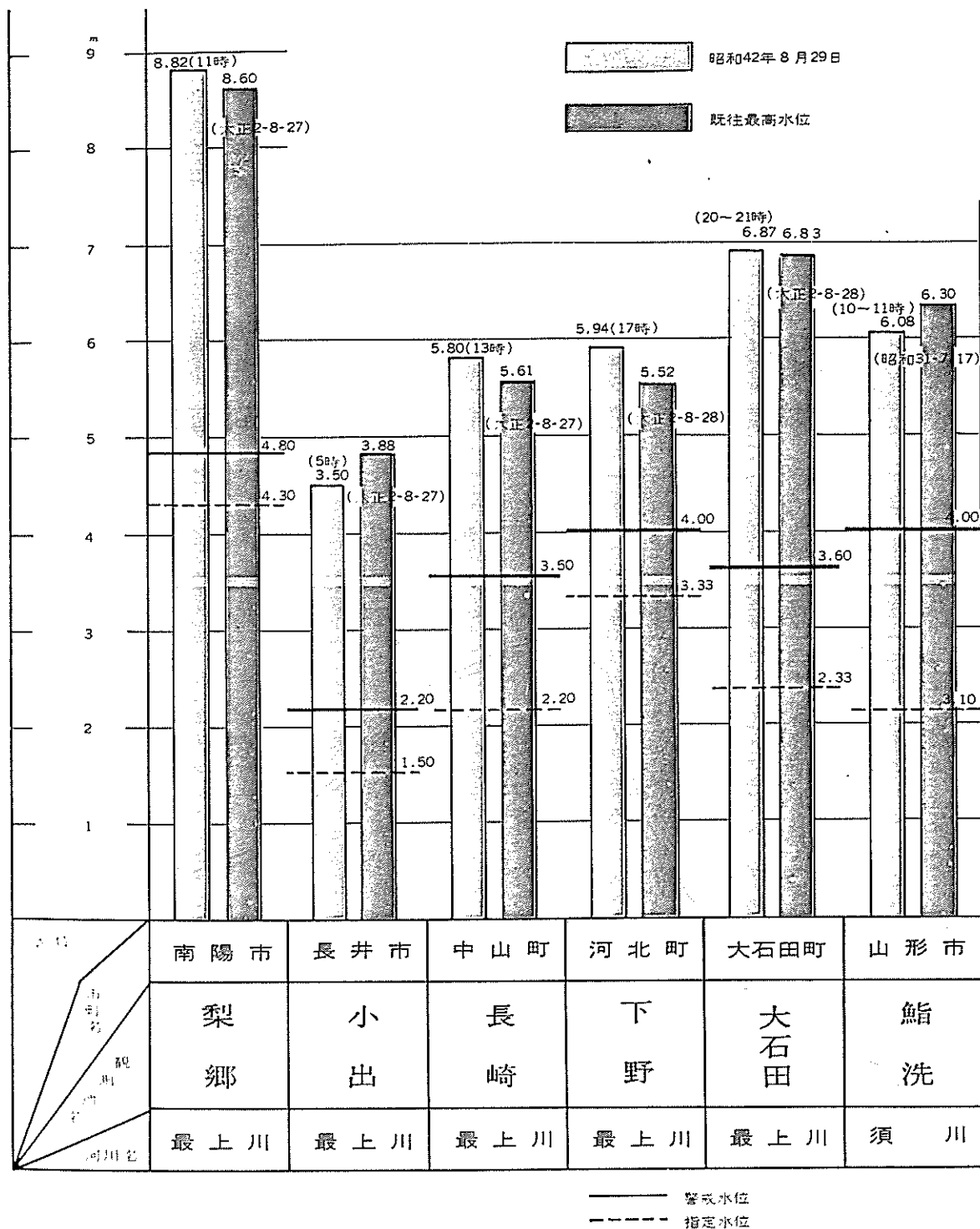
8月28日の早朝から、緩慢な上昇を続けていた各河川の水位は、夕刻から夜半にかけ全川にわたり急激に上昇を示し、南陽市梨郷、中山町長崎、河北町下野、大石田町の各基準量水標では、それぞれ28日21時から29日1時までに指定水位を越え、この後雨勢が増すにつれ、1時間40～70cmと急上昇し29日3時までには続々と警戒水位を突破するにいたった。

一方飯豊、朝日山系を源とする左支川、白川、野川、及び朝日岳の東斜面を流域とする西置賜地方の各河川の水位の上昇も激しく、特に白川筋、飯豊町椿量水標は28日18時指定水位を越え22時には警戒水位を突破し、以後観測不能となった。



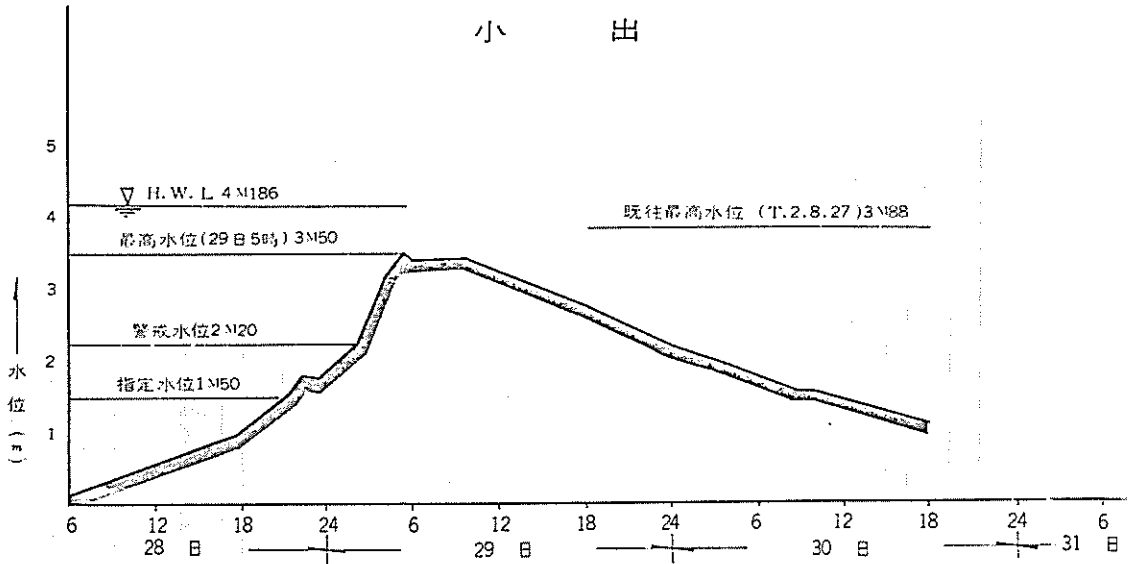
自記水位観測所〈中山町長崎〉

おもな観測所の水位

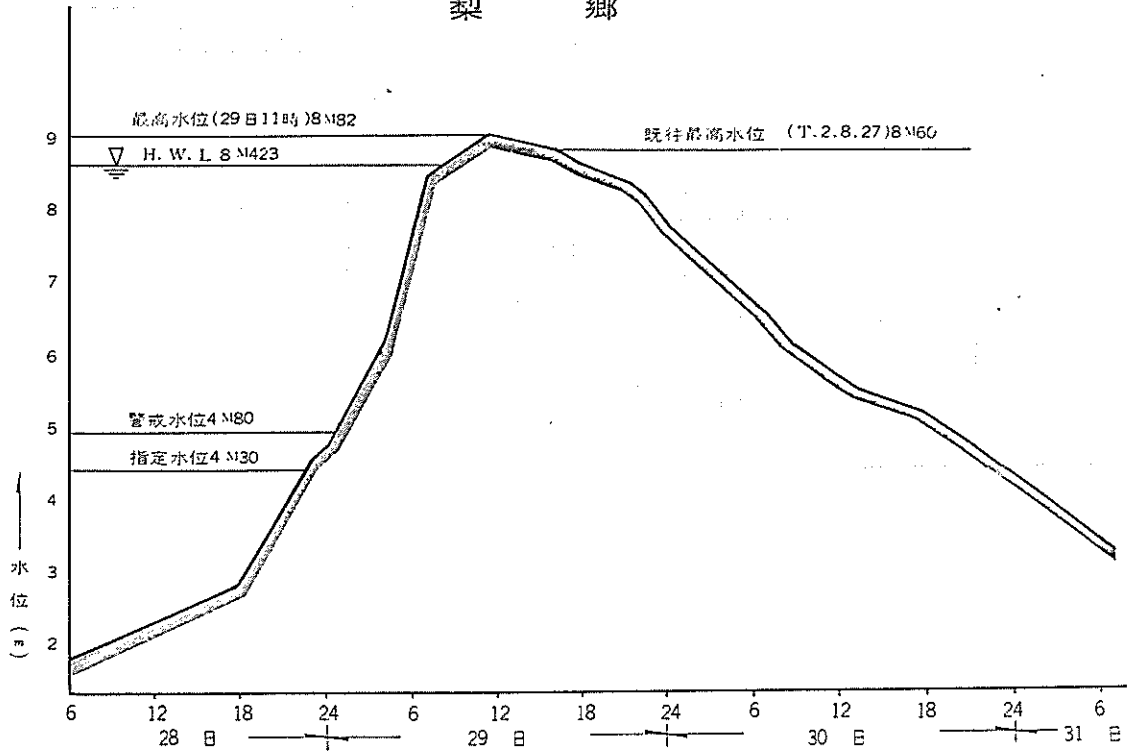


時 間 水

小 出

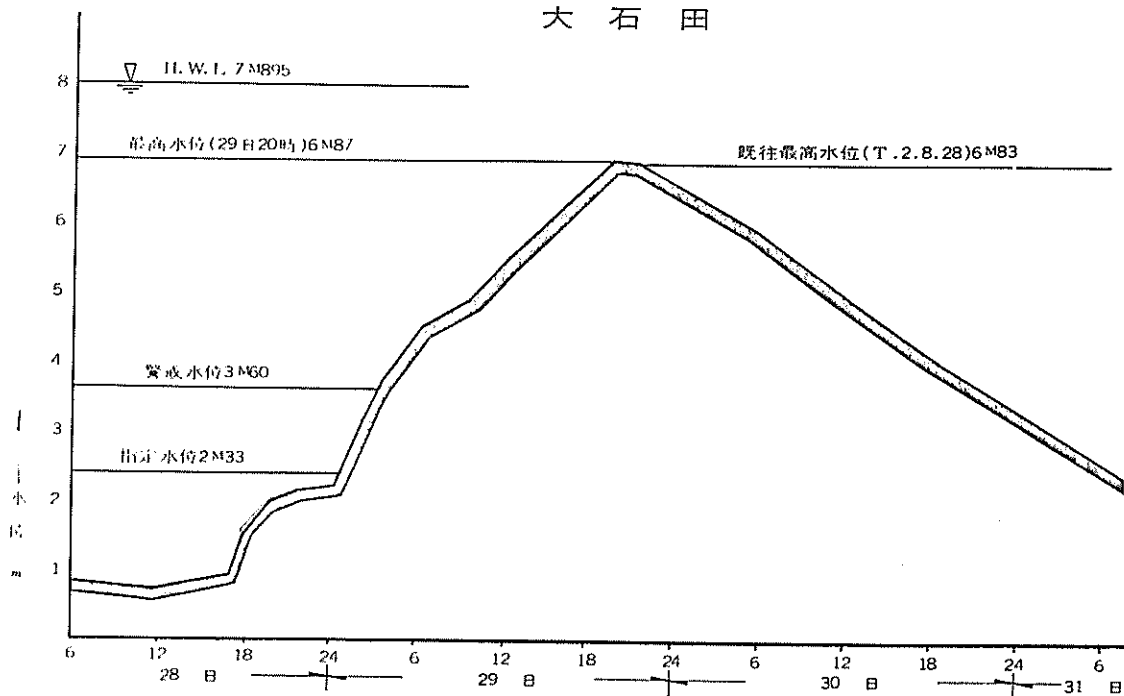


梨 郷

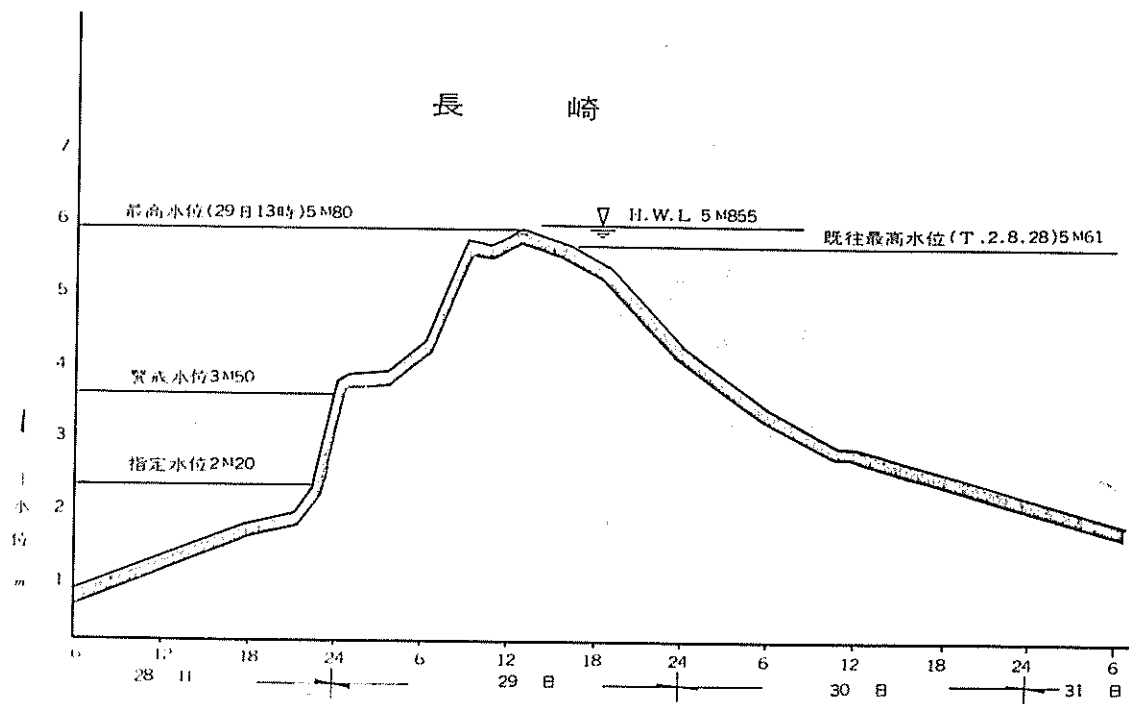


位 曲 線

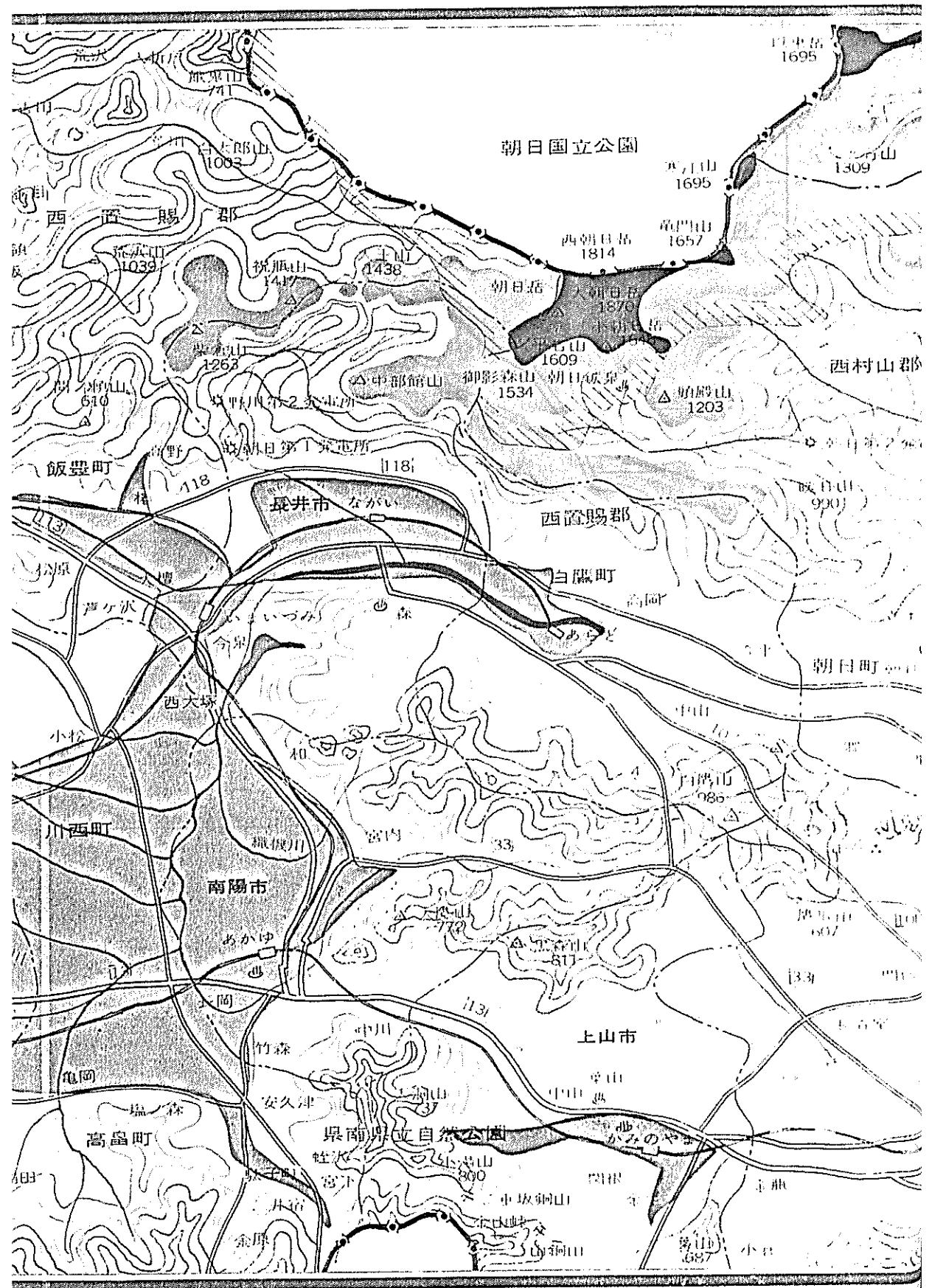
大 石 田



長 崎



はん 濫

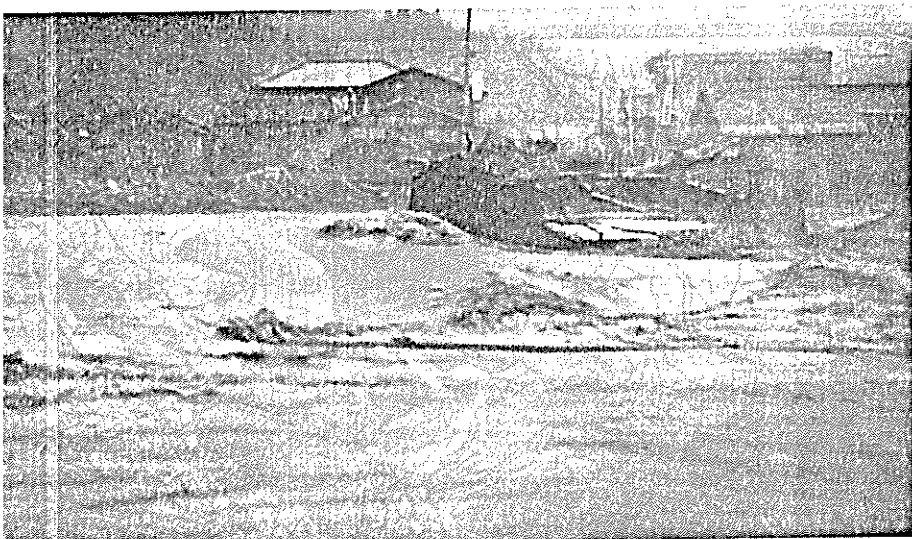


This is a detailed topographic map of the Sagami District (相模地方) in Kanagawa Prefecture, Japan. The map shows the Sagami River (相模川) flowing through the region, with numerous tributaries and surrounding mountains. Key locations include Sagami City (相模市), Sagami District (相模郡), and various towns and villages. The map also depicts the Sagami Bay (相模湾) and the Sagami Peninsula (相模半島).

Key features and locations on the map include:

- Mountains:** Several peaks are labeled with their elevations, such as 赤見堂山 (Akemidō-san, 446m), 石見堂山 (Ishimidō-san, 1286m), 大南原山 (Dainanharu-san, 1396m), 大久保山 (Ōkubo-san, 1462m), and 大久保山 (Ōkubo-san, 1010m).
- Rivers:** The Sagami River (相模川) is the central waterway, with tributaries like the Arakawa River (荒川) and the Sagami River (相模川) shown.
- Towns and Villages:** Sagami City (相模市), Sagami District (相模郡), and various towns and villages are labeled, including 山辺町 (Yamanobe-chō), 吉野宿 (Yoshinokado), 中山町 (Nakayama-chō), 寒河江市 (Sagami-shi), 河北町 (Kaitō-chō), 西村山郡 (Seyurayama-gun), 大久保 (Ōkubo), 長瀬 (Nagase), 天童市 (Tendō-shi), and 観音寺 (Kannonji).
- Geographical Features:** The Sagami Bay (相模湾) and the Sagami Peninsula (相模半島) are shown, along with the Sagami River (相模川) and its tributaries.
- Infrastructure:** The map shows the Sagami River (相模川) and the Sagami Peninsula (相模半島), along with the Sagami River (相模川) and its tributaries.

災害



◀小国橋に激突する
濁流

◀小国町提供



濁流におし流される民家▶
遠方の建物は小国小学校

◀小国町提供



◀階下が崩れ倒壊寸前の
民家

◀小国町提供

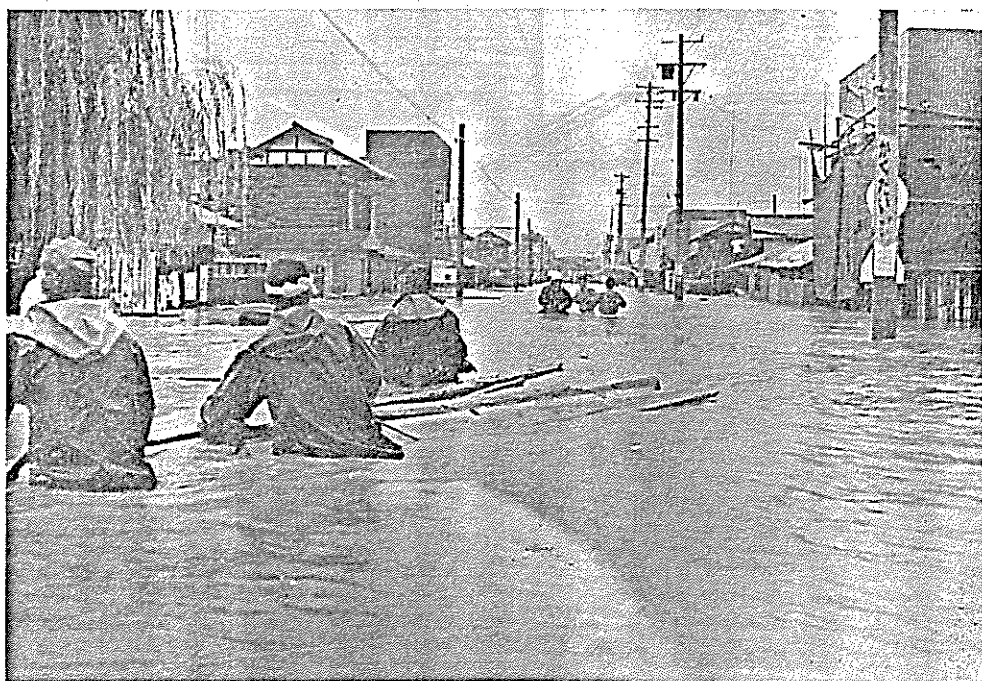
激流におし流された国道▶
113号線の中ノ橋と国鉄米坂
線、荒川第3鉄橋の残がい

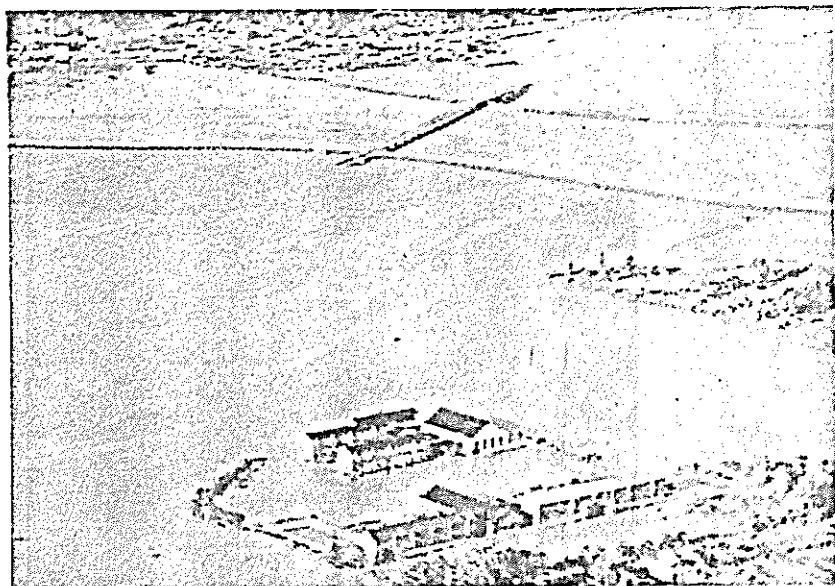
〈小園町提供〉



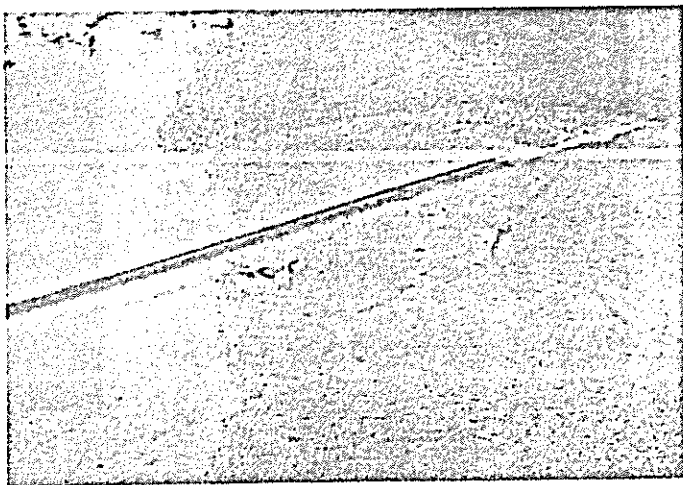
減水し始めた▶
市内で腰まで
水につかり流
木を集める製
材所の従業員

〈米沢市提供〉





◀水につかる川西町
西大塚小・中学校
上方は幸来橋



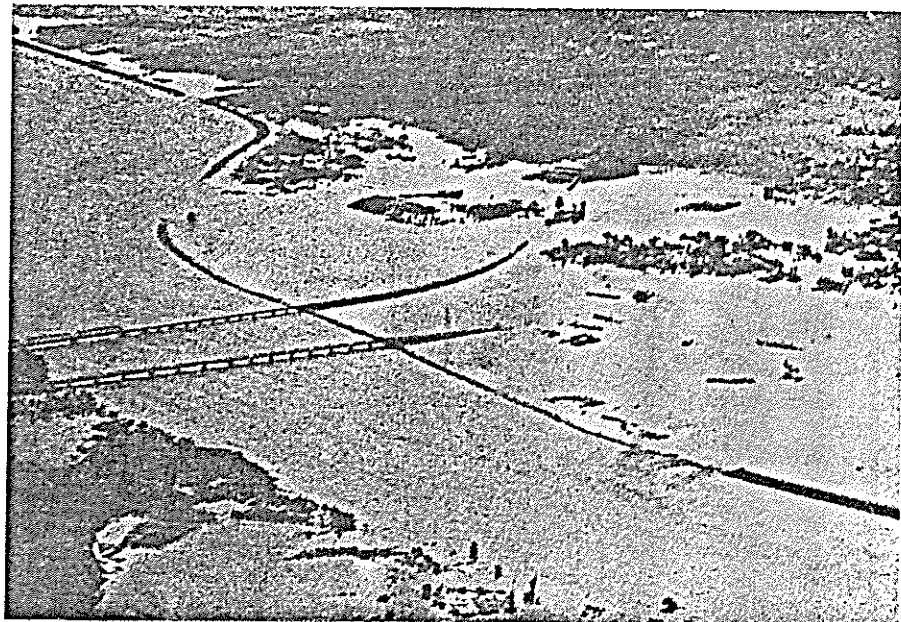
堤防決壊箇所より逆流する濁流▶
中央建物は白鷹町火葬場



◀白鷹町睦橋の両岸

穀倉地帯を荒れ狂▶
った最上川

〈白鷹町荒砥鉄橋附近〉

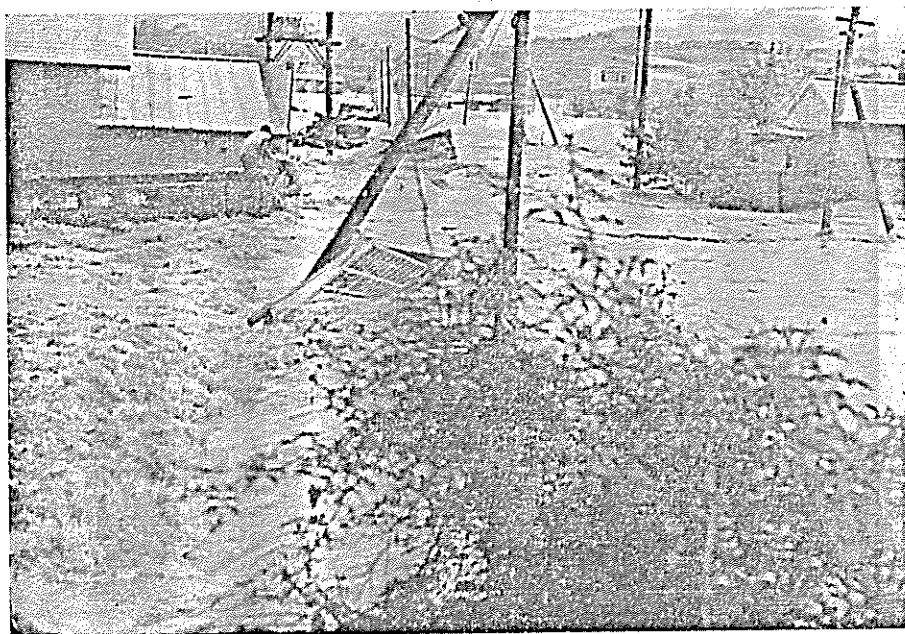


◀突りを前にして泥海となった
青田

〈河北町押切地内〉

国道112号線中山町長崎橋▶
取付道路の冠水



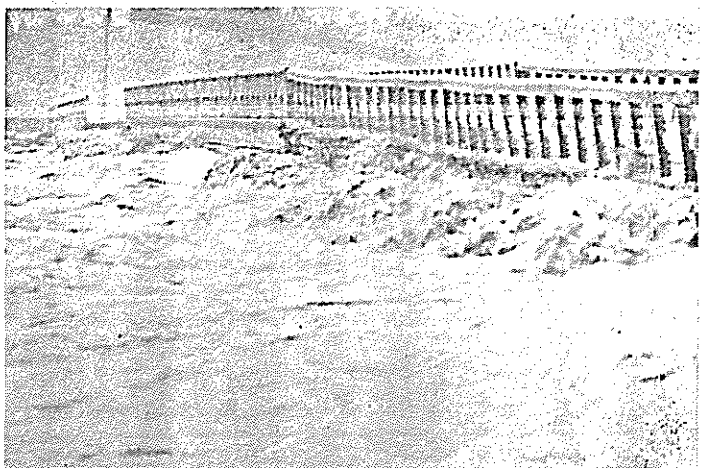


◀瞬時に白鷹町鮎貝地内！
襲う濁流

〈白鷹町提供〉

流失寸前の白鷹町睦橋▶

〈白鷹町提供〉

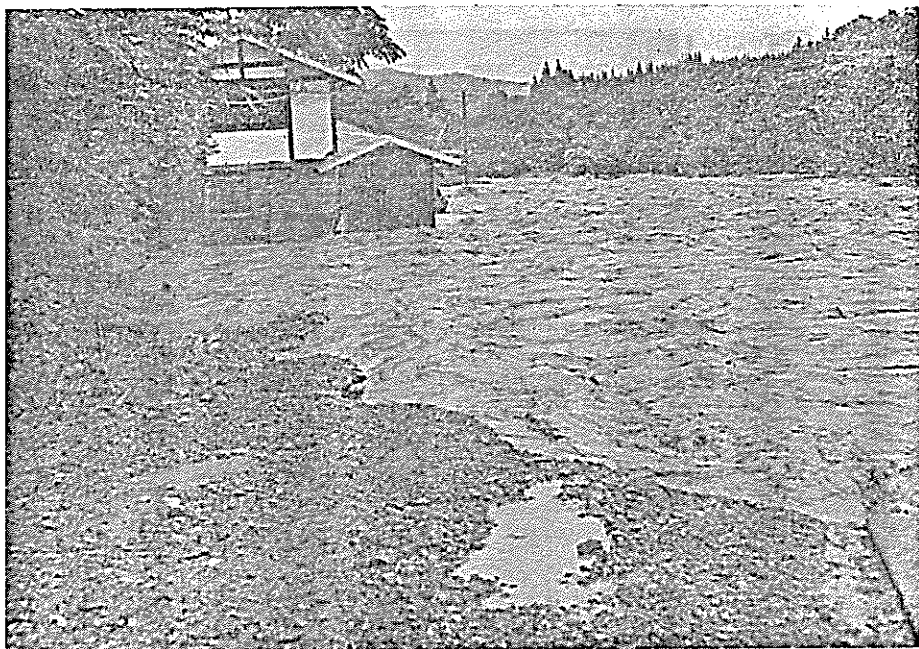


◀消防団員に救助される母子

〈中山町地内〉

崩壊寸前の家屋▶

＜大石田田沢地内＞



▶はん濫の大石田町

左上方の橋は大石田入橋



押流された自動車▶

＜中山町長崎橋附近＞

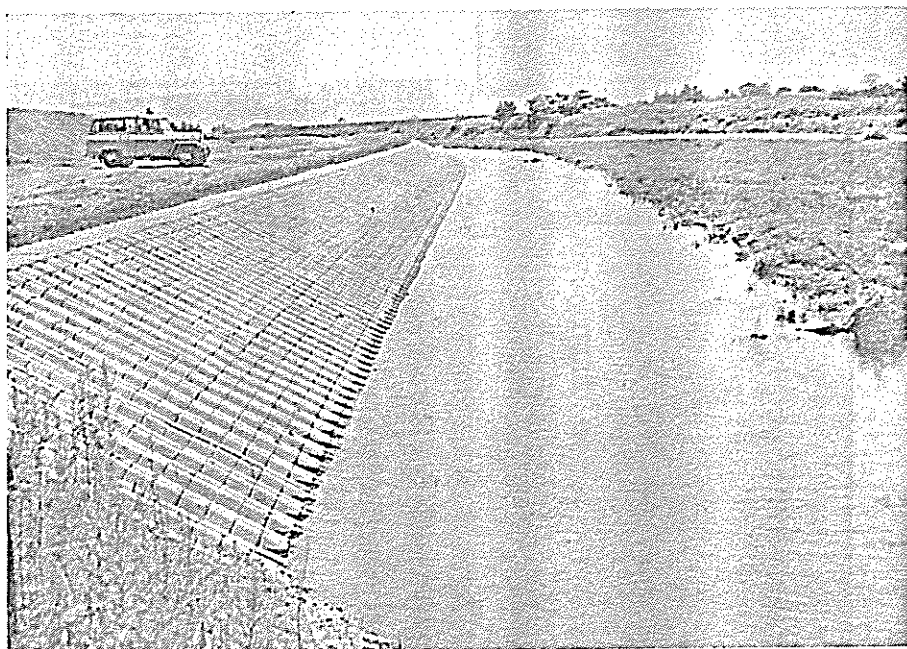


* 復 旧

記録的集中豪雨による災害に対し、山形県では29日いち
はやく災害対策本部を設置するとともに、小国町、川西
町、飯豊町と次々に12市町村に災害救助法を発動した。
特に国道113号線、国鉄米坂線の不通により孤立した小
国並びに飯豊地区には自衛隊のヘリコプターによる救援
物資輸送が行われた。自衛隊の災害派遣人員は延5,551
名に達した。

政府においては「激甚災害特別財政援助法」による激甚
災害に指定し、県市町村で行う災害復旧に必要な財政援
助がなされた。

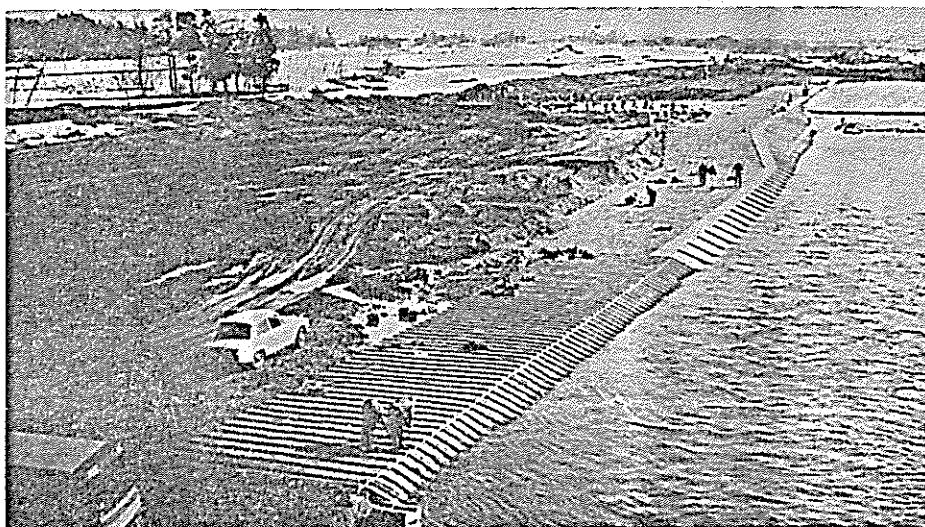
建設省においても国道113号線の早期復旧のため直轄
施行に決定し、10月1日小国町に山形工事事務所所属の
小国国道出張所を新設した。又直轄分の最上川上流部に
ついては事務所を始め長井、南陽、寒河江の各出張所を
もって早急に復旧工事に着手、昭和43年度に全復旧工事
を完了する予定である。



露藤第3護岸災害復旧工事

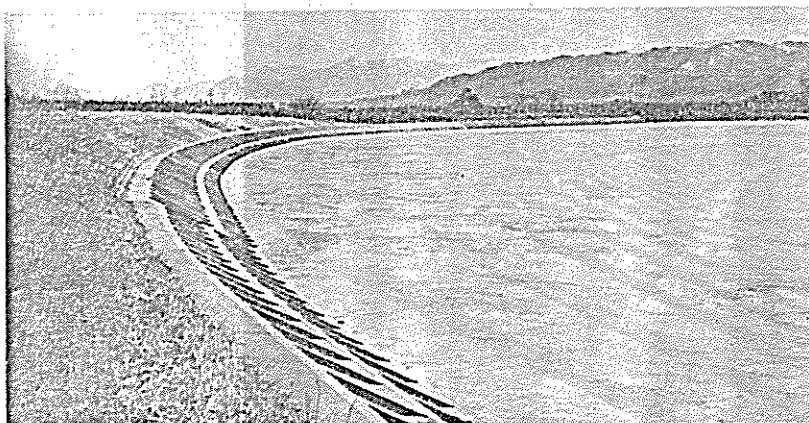
<高島町露藤地内>

復旧工事写真集



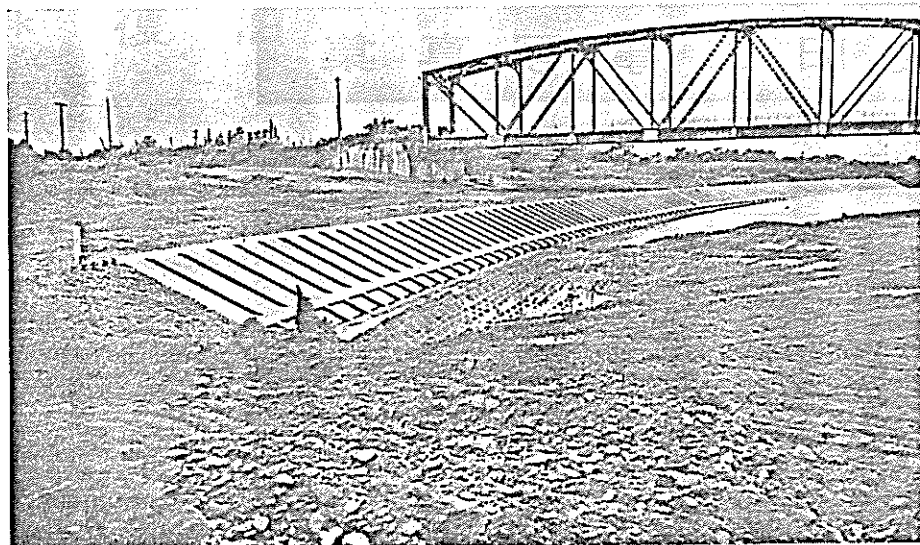
◀ 窪田床固護岸災害
復旧工事

◀ 米沢市窪田町地内 ▶



◀ 島第Ⅰ護岸災害復旧工事

◀ 寒河江市大平島地内 ▶



◀小出第2護岸災害
復旧工事

◁長井市小出地内▷

下野第1護岸災害▶
復旧工事

◁西村山郡河北町下野
地内▷



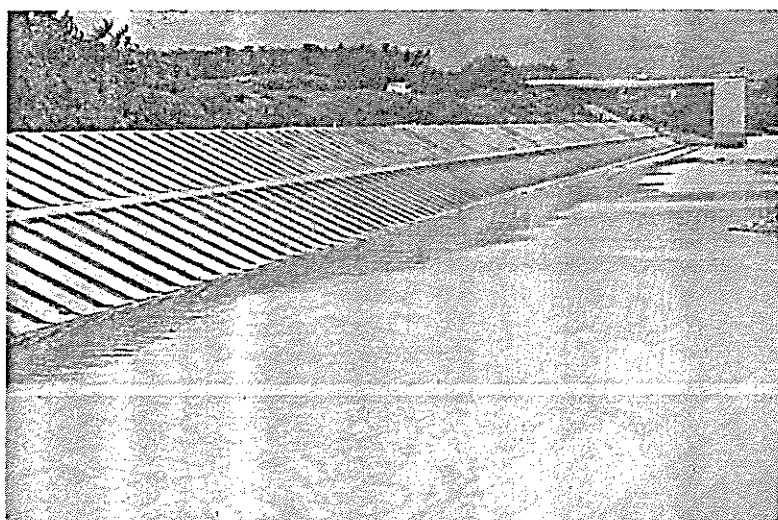
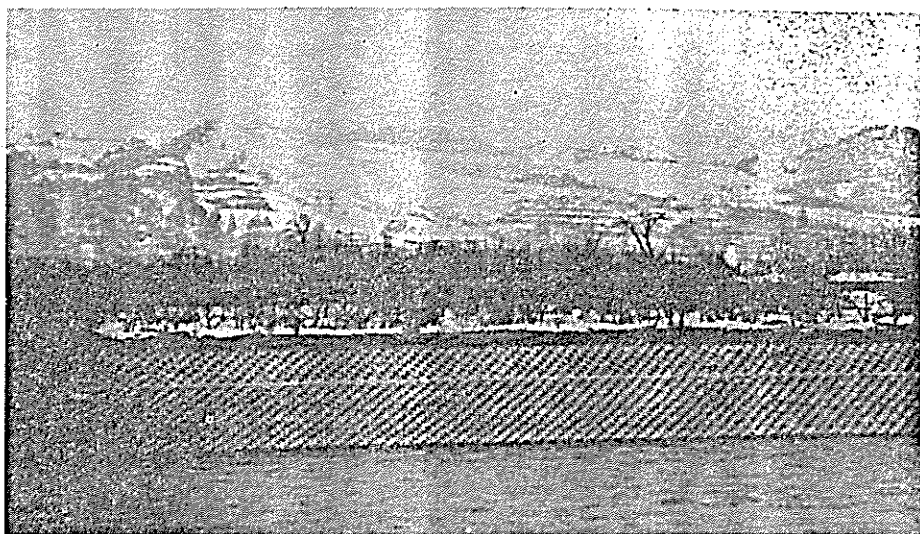
◀溝延第4護岸災害
復旧工事

◁西村山郡河北町溝延
地内▷

小塩護岸災害▶

復旧工事

＜東村山郡中山町長崎
小塩地内＞



◀長崎護岸災害復旧工事

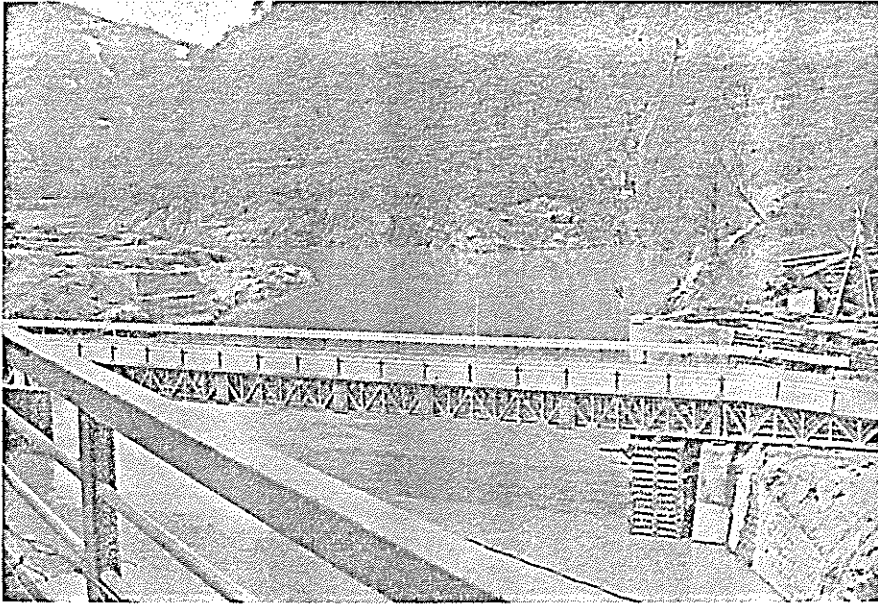
＜東村山郡中山町長崎地内＞

糠野目第4護岸▶

災害復旧工事

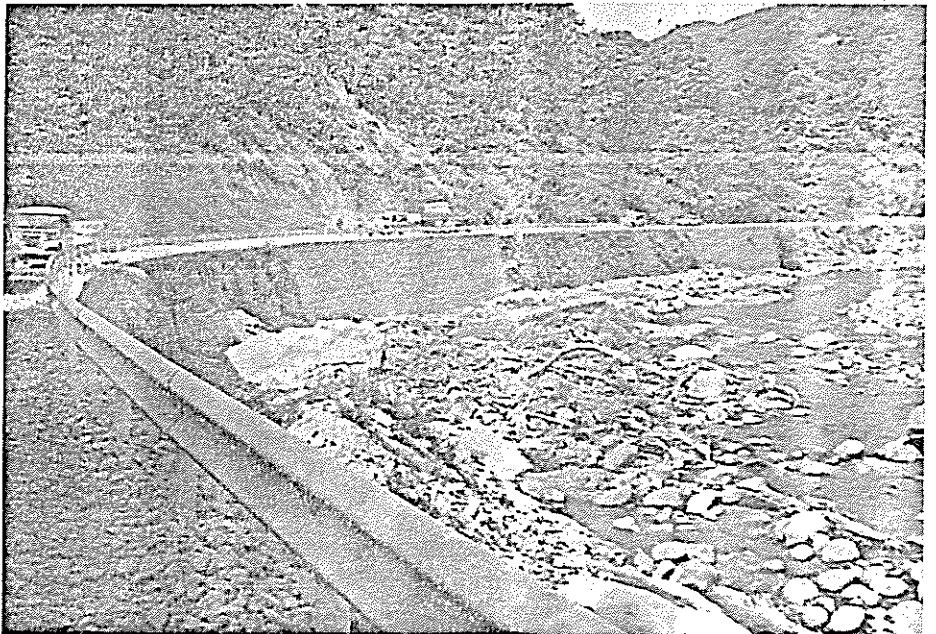
＜東置賜郡高田町
糠野目地内＞





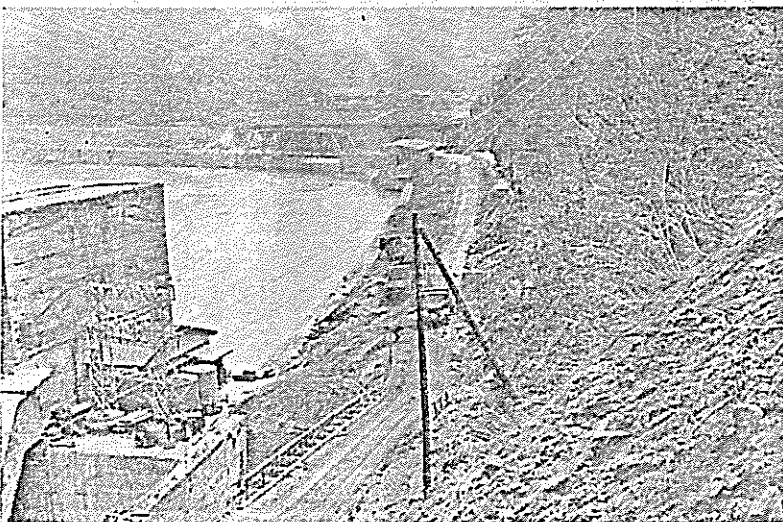
◀国道113号線中ノ橋<仮橋
架設工事

<西置賜郡小国町玉川地内>



小国道路第2災害▶
復旧工事

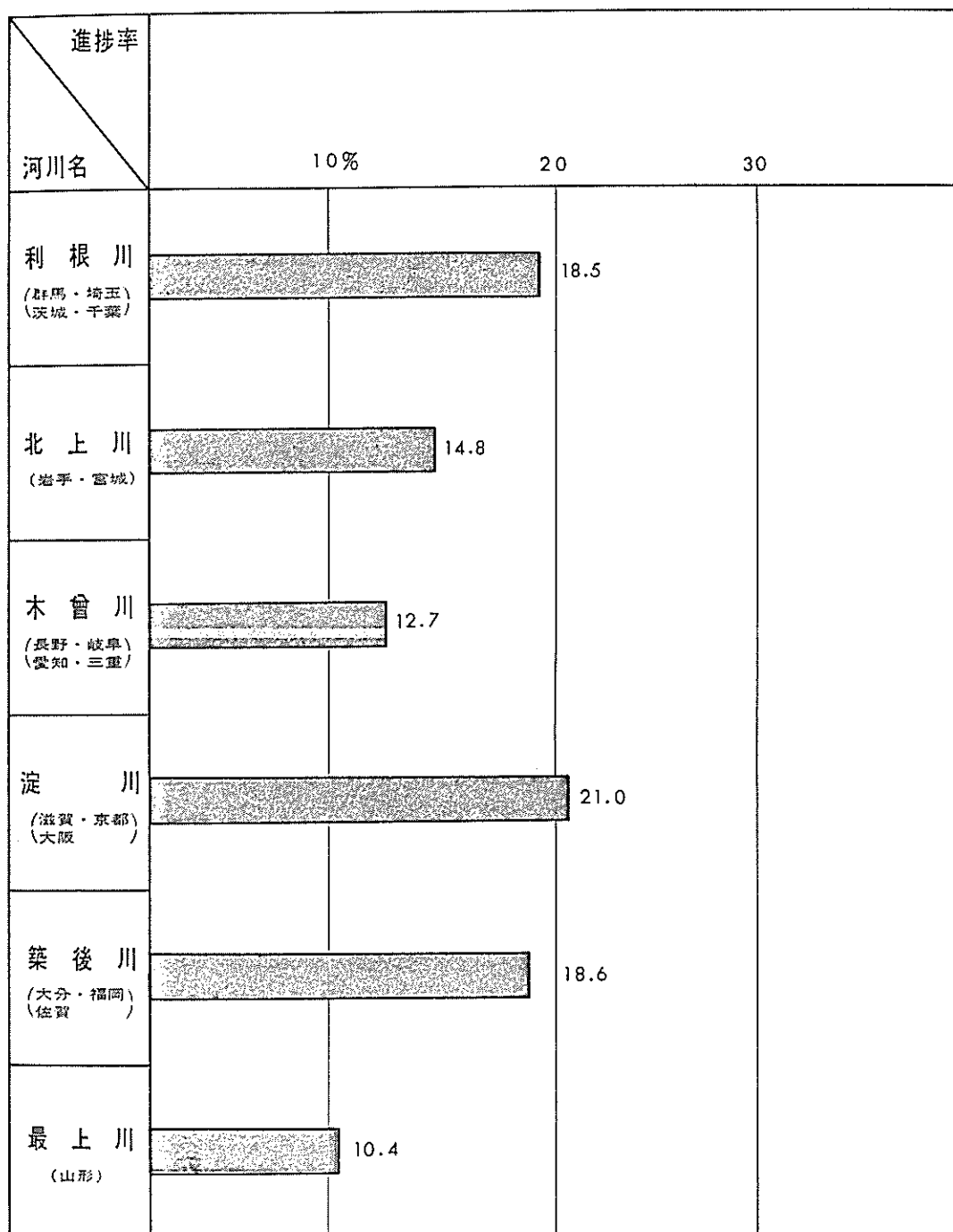
<西置賜郡小国町松岡地内>



◀小国道路擁壁工事及び小国道路
第5災害復旧工事

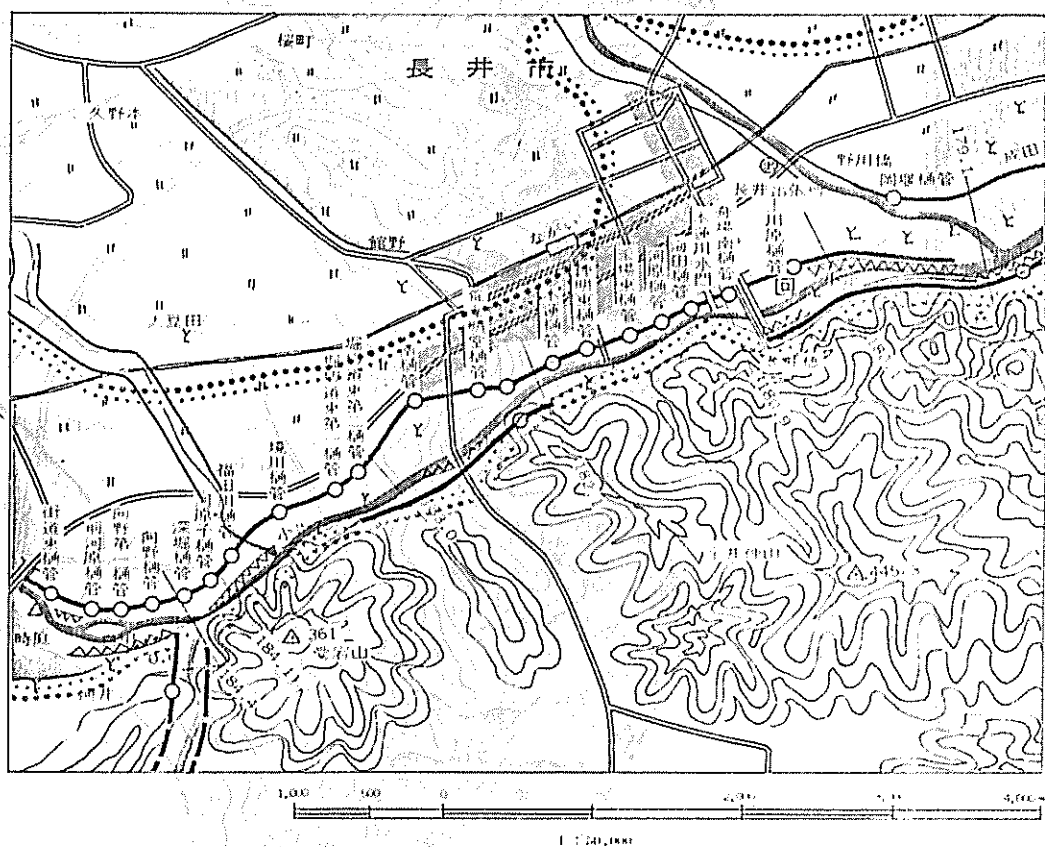
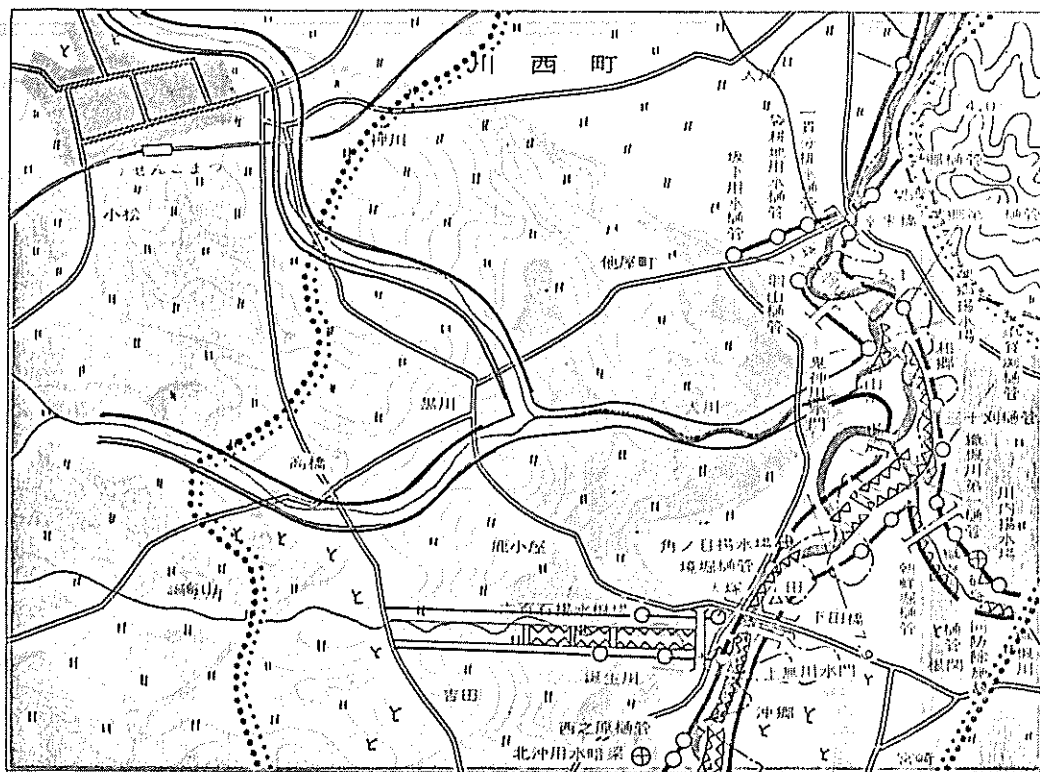
<西置賜郡小国町玉川地内>

おもな河川改修計画進捗状況



(昭和42年度版「建設白書」参照)

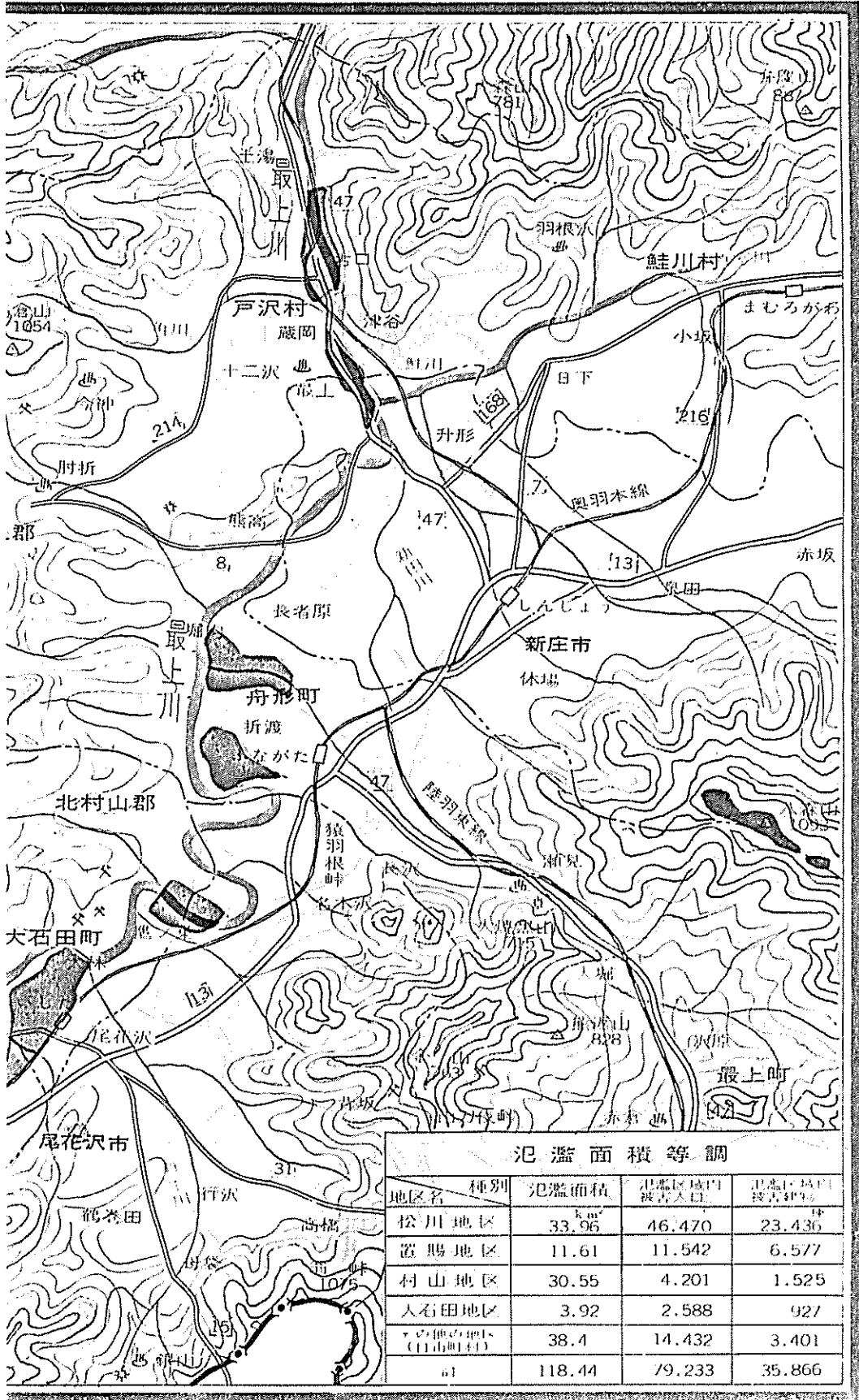
建設省東北地方建設局
山形工務事務所



縮尺 1:100,000

0 1 2 3 4 5 8 12 16 20km





はん濫区域

